



2025 年前半
記録写真



発行日 令和七年八月十三日 第四五号

浄敬寺だより



【法語】

すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ。

殺さしめてはならぬ。

すべての者は暴力におびえる。すべての（生きもの）にとって生命は愛しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。

『法句経（ダンマパダ）』

（『ブツダの真理のことば・感興のことば』

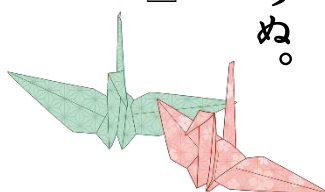
中村元 訳 岩波文庫 二八項より）

【解説】

終戦から八十年の夏を迎え、今年はいつもの以上に特別な思いで、テレビ中継される広島と長崎の平和祈念式典を観ました。

被爆者の方も実際に戦争の体験を語られる方も高齢化し、生の言葉にふれる機会が減りましたが、心と身体に受けた傷をさらけ出し、命懸けで語ってくださったその言葉を、私たちはこれまで以上に真摯に、そして想像力を駆使して、「わが身に引き当てて（照らして）」聞いていく必要があるのではないのでしょうか。

世界に目を向ければ、「抑止力」の名のもと、核武装し暴力を正当化するような動きが見られ、戦争や一方的な暴力の只中にある地域もあります。国内では、「〇〇ファースト」という言葉を幾度となく聞きました。命にはファーストもセカンドもなく、優劣はありません。「かけがえのない存在」があるだけなのです。



☆巻頭法話☆

最近あまり目にしませんが「慈雨」という言葉があります。今こうして寺報の原稿を書いている最中に久々に雨が降ってきました。もう何日も雨がなく、所によつては水不足が深刻な状況と聞いていましたので、文字通り慈雨となりそうな降り方です。雨というものは時にはこうして人間にとって有難い自然現象ですが、時にはまた大きな災害をもたらす厄介なものにもなります。穏やかな海であつても、時には大きな津波となつて大地を飲み込みます。人間は自然の中で生かされているものだということを改めて考えさせられます。

真宗門徒が日頃のお勤めで読ませていただいている「正信偈」は「帰命無量寿如来」というお言葉から始まります。「無量寿如来に帰命したてまつる」という意味です。「無量寿」とは量ることの出来ないいのちを言い、「如来」は「仏」という意味ですから、この一行には量りしれないいのちの仏に帰命いたします。という意味がこめられているのです。「無量寿如来」と聞くと、どこかにとても長生きの仏様がおられるのかというイメージで読んでしまいますが、分量と関係がないようないのち、これを「無量寿」というのです。私たちは何事も自分のものさしでし

か量れない存在です。無量ではなく有量でしかはかれない存在なのです。分量ではかることの出来ない「いのち」だということを照らし出してください、これが「無量寿如来」なのです。

よくよく考えてみますと、私たちの生活の有様は、何事も自分の都合だけで判断していることがほとんどです。良いか悪いか、勝ったか負けたか、役に立つか立たないか、私たちは自然界だけでなく人間自身の命にさえもそれを当てはめているのではないのでしょうか。あの人は使える、この人は使えない、病気になるって寝たきりになれば、生きる価値があるかないか、ここまで言つてしまいます。日頃のちを全部自分のものさしではかつている現実の中で、そうではありませんよ、それはあなたの曇つた有量のまなこで見ている世界ですよ、本当の無量寿の世界に出遇つてください。そのことが正信偈の最初に一番の願いとして書かれているのです。

昭和六十二年に浄敬寺住職に任ぜられ、今年で三十八年目になりました。今年近辺の寺院で二力寺住職の交代がありました。ほぼ私と同年代の住職が交代され、時代の推移を痛感しています。浄敬寺庫裡改修もお陰様で工事の方は無事完了しましたが、募財計画期間がもう一年少々残っております。お陰様で浄敬寺も次代の後継の心配はありませんが、何事

にも節目というものがありますので、もうしばらく
 浄敬寺護持のため頑張らせていただきながら、ご
 門徒の皆様と共に一念仏の教えを聴聞してまいりた
 いと存じます。 合掌

(住職)

☆庫裡便り

◎庫裡改修工事について

庫裡改修工事(リノベーション)が終わり、お陰様で行事・法事・葬儀等、大変便利に使わせていただいておりますが、募財については引き続きご協力をお願いいたします。

改修に伴い、寺で葬儀の執行もできるようになりました。ご希望ありましたらご相談ください。

浄敬寺の日々の出来事から
 坊守の所感をお伝えします。



改修後、初の葬儀の様子



◎名工・小川由廣さんの親鸞像

前回ご紹介した小川由廣さんの造られた親鸞
 聖人像が中庭に戻りました。



◎同朋新聞より

同朋新聞三月号に浄敬寺御門徒
 で柏刈同朋の会会長の渡辺正純さ
 んの活動について掲載されまし
 た。浄敬寺の諸行事だけでなく、
 柏崎刈羽地区で開催される聞法会
 や行事の企画運営し、熱心に聞法
 をされています。ぜひご覧ください。



◎夏休み子どもお楽しみ会

一年の中で寺が一番活気づく「夏休みお楽しみ会」を開催しま
 した。境内で輪になっての遊びは、キャンプファイヤーのように
 楽しそうでした。

ヤマハの先生方の演奏には、ノリノリで踊ったり歌ったり。タ
 方の涼しい風の中で夕食のカレーとサラダ。子ども用のカレーは
 具材を細かくきって食べやすく、皆さん完食。食事スタッフの原
 さん・今井さん・中島さん、暑い中ありがとうございました。

寺の子ども会では、弘信と優人は友だちを誘っての参加でした
 が、高校生の唯信と中学生の顕信はスタッフとして参加し、進行
 を手伝ったり、参加の子どもたちの面倒をみたりする姿に成長を
 感じました。翌日も本堂と庫裡の拭き掃除を手伝ってくれました。

☆二〇二五年前半を振り返って【行事報告】

◎春彼岸（お中日・三月二十日）法話

住職より法話に引き続き、子ども達も出仕して、御門徒の皆さんと正信偈・念仏和讃・回向を皆さんとお勤めしました。庫裡改修工事により、昨年の春彼岸から手作りのお齋を休止しておりましたので、修復後最初の庫裡でのお齋でした。

◎報恩講お引き上げ（五月十九日）

真宗門徒の年中行事において最も重きをおくのが、親鸞聖人のご命日のお勤めである報恩講です。今年もお馴染みの今泉温資師よりご法話、引き続き法中御寺院方のご参勤いただいたの勤行でした。庫裡の改修工事、コロナ禍を経てのお齋完全復活で、参詣の御門徒の皆様、参勤の法中御寺院のお齋の両方を手作りすることができました。ご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。お齋後には、村井宏明氏よりバイオリンにて懐かしい名曲の数々を演奏していただきました。

◎盆参会（七月十四・十五日） 法話・当院

ぼんさんえ

盆参会（盆内）とは、そもそもどんな行事？と聞いてくださった方があり、兄弟姉妹の皆さんが連れ立ってお参りされた昔ながらの盆内とは様子が変わりました。つつある近年ですが、法話で当院がお話した通りですが、世の中のあらゆるものは、「形」になるまでの歴史があります。なぜこのような形となったのか……ということに、疑問を持つことで、現在の勤行本や儀式やお荘厳にお念仏の歴史が現れていることを感じられるのではないのでしょうか。



◎夏の法話会（七月六日） 法話 佐野 明弘 師

「このことひとつ——真宗の要——」

二年ぶりに、石川県加賀市・光闡坊住持であり、大谷専修学院院长でもある佐野明弘先生からお話をいただきました。

私たち人間の本質は、「確かな拠り所」や「信じられる何か」を求めることにあります。人は自分の価値観に基づいた満足を得ようと、そのたびにさまざまに願いを起こします。しかし、その満足は、いざ叶ってしまうと、すぐに消えてしまうのです。そして、また新たな願いが生まれ、同じことを繰り返すのです。これを「流転」といいます。

このような流転の中で、私たちは、「本当に満ち足りた人生を送り、満足して死んでいくこと」は無いのかと問うのです。お釈迦さまは、そのような生き方へ至る道は仏道しかない、ただこの道一つであると説かれました。

そのため私たちは、自らの本質に従って仏教に拠り所を求め、仏さまを信じたいと思い、具体的な信仰生活を願うのです。けれども親鸞聖人は、人間にはそれを持ち続けることが難しいと説かれました。そして、そのように「持続できない人間」そのものを「難」と受けとめておられるのです。

阿弥陀さまは、その「難」である私たちを「凡夫」と見出し、「念仏せよ」と呼びかけておられます。つまり、私たちは初めから念仏すべき存在である、ということなのです。

親鸞聖人は晩年、ご和讃に「弥陀の本願信ずべし」と記されました。これは、親鸞聖人ご自身が何度も聞き、確かめ、そして心からお念仏をよるこばれたことを示しています。私たちもまた、聞くべきことを何度でも、新たに聞くことができる存在なのです。

佐野先生は、私たちが願われていることは「良い者になれ」ではなく、「ただそのこと一つなのです」と、そうお話くださいました。

（当院・記）



☆二〇二五年前半を振り返って【番外編】

◎新潟教区第十組仏教文化講演会 その後

能登地震のその後被災地「珠洲」をたずねて

去る六月二十一日にアルフォーレで開催された新潟

教区第十組仏教文化講演会では、珠洲焼作家の篠原敬

氏から、『被災者となりて念（おも）うこと』の講

題で、大地震や豪雨による被害を受けたからこそ気

付かされたことやそこから今現在までの歩みをお話

いただきました。「これも『あたわり』やわいね

え…」と、ご年配の方々が能登の方言で仰るそう

ですが、地震以前も以後も、目の前の現実を引き受けておられる

生き様をお聞きしました。人間の都合でどうにかなると思いがち

ですが、自然・大地の恩恵の中に生かされ、許されて存在してい

るのが人間であるということをお話いただいた講演会でした。

その後、企画・運営に携わった数人で、篠原氏の工房をたずね、

珠洲の現状を実際に見せていただきました。浄敬寺でも支援金をお

願いし、多くの方に協力いただいておりますので、地震から

一年半後の様子を掲載します。



珠洲の海岸沿いを走ると、土砂崩れや津波の爪痕が各所に。一年半経ちますが、公費解体の順番がまだ…ともお聞きしました。



5

◎夏休みお楽しみ会

昨年は開催ができませんでしたので、二年ぶりの開催。私たちも楽しんで準備をさせていただきました。今年は甥・優人（五歳）のお友達が沢山。少し大きいお兄さんお姉さんが沢山お手伝いもしてくれて助かりました。参加者のお母さんから、「みんないい顔をしていて、境内で島に乗る姿が印象的でした。」と心あたたま小さな子を大事に腕に抱える姿が印象的でした。」と心あたたまるメッセージをいただきました。子ども同士の関わり合いの中に、毎回素敵な発見をさせてもらっています。（晴香・記）



二〇二五年後半の行事予定（参加お申込み不要）

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

* 十三日・・・ 午前六時より 本堂にて勤行

八月二十五日（月） おてらヨガ 午前十時より

九月十三日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

九月二十～二十六日 秋彼岸

* お中日二十三日（秋分の日） 午前十時半～法話 勤行 おとき

九月二十九日（月） おてらヨガ 午前十時より

十月十八日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十月二十七日（月） おてらヨガ 午前十時より

十一月五～八日 三条別院報恩講

* 五日（火） 午前十一時より お待ち受け音楽法要

* 団体参拝の日程が決まり次第、ご案内します

十一月十一～十二日 有縁講

十一月十五日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月十七日（月） おてらヨガ 午前十時より

十二月七日（日） 年末公開講演会

午後一時半～物故者追弔 勤行・午後二時～四時 講演会

講題 「自分らしく生きたい 自分らしく逝きたい」

～すてきな最期の迎え方～

講師 佐藤 直子 医師

長岡赤十字病院 院長補佐

地域連携・患者サポートセンター長

緩和ケア科 部長・血液内科

医学博士・公認心理師



十二月二十二日（月） おてらヨガ 午前十時より

二〇二五年一月一日 修正会 勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

「あんない

☆ おてらヨガ：（ミニ法話×ヨガ）

・ 月一回月曜日、午前十時より約一時間・参加費千円

・ インストラクター 砂長谷真梨子さん

☆ 定例法話会：『歎異抄』をよむ会（シーズンⅡ）

・ 日時 二〇二五年後半は変則的になります、

曜日と開始時間は土曜日午前九時です。

・ 内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

（終了後、ささやかな茶話会あり）

・ 持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』のテキスト



☆真宗門徒の豆知識

仏事や真宗の教えで何となく気になること、疑問に答えるコーナーです。

今回は「不思議に思うことってある？」と、子ども達に聞いてみました。親子の会話からお楽しみください。

ちょっくら
Q & A



Q1、長男・唯信&次男・顕信のナゾ

「東本願寺でお勤めの途中で頭振りながら
読むアレは何？」

A、「それは『坂東曲』のことね。確かに、十一月二十八日には全国版でもニュースになるから、不思議に思うよね。解説しましょう！」



ばんどうぶし
坂東曲は年に一度、十一月二十八日の親鸞聖人のご命日のお勤め、報恩講で東本願寺だけで勤まります。一連の流れの中で、お勤めの導師が礼盤にて登高座作法を行う合間に読まれるお念仏・和讃が上半身をゆすりながら発声する動きのあるお声明に変わります。

由来は諸説あるようですが、今現在分かっていることとして、踊りながら念仏することで民衆に布教した「踊り念仏」と近い関係があるのではないかとお聞きしています。そして『坂東』というからには、京都に対して東…つまり関東に縁のあるお勤めです。今でこそ大都会で日本の中心的役割の関東ですが、当時の感覚からすれば、京都（当時の都）に対しては、武士を中心に栄えた荒っぽさすら感じる田舎。その関東訛りのあるお勤めということになります。報恩講をお勤めするようになったのは勿論親鸞聖人がお亡くなりになってから後のことですので、未開の土地であった関東で親鸞聖人の教えを聞き、親鸞聖人が去られた後も、京都まで訪ねてこられるよう関東の御門徒に象徴されるような、教えに出会った感動や真実を問い続けた、当時の人々の熱意を表現し、伝えているのでしょ。

7

Q2、次男・顕信のナゾ

「東本願寺で得度式を受けた時に、合掌して三回立ったり座ったりしたんだけど、どういうこと？」

A、「最も丁寧な合掌礼拝の作法よね。三回ということも大事なポイントね。」

私たち真宗門徒の合掌の基本的な姿勢をお伝えする機会があると、
①まず姿勢を正して合掌し ②御本尊を仰ぎ見て（閉目せず）
③口に自分に聞こえる程の声で「南無阿弥陀仏」と称えましょう。
合掌したまま頭を下げることはしません。
と、お話しています。

両膝・両肘・額を地につけ、伏して合掌する五体投地の礼拝は、チベットの聖地巡礼の様子を伝えるテレビ等で観られたことがあるかと思えます。その五体投地の合掌とは少し形が違いますが、得度式では、それに近い、両膝・両肘・額を畳につける丁寧な合掌礼を行います。

作法とはそれぞれの宗派で成り立っており、それぞれが大事にしたポイントを形に表したものです。目くじらを立てて、正しいとか間違っているとか言及する必要はなく、何より大事なことは、形にまでなって届けられていることの背景を、見て聴いて感じていくことではないでしょうか。違いには言及せず、共通の大事な点をお伝えします。畳で正座しての合掌と、御堂の内陣のような板の間での合掌の姿勢は異なりますし、子ども達が経験した得度式での合掌礼拝は、最上級の敬いを表す合掌です。この合掌礼拝を三回することを三拝といい、年に一度の報恩講では、住職が登高座作法の際に行っています。

何故三回（三拝）なのでしょう。僧侶になること、僧侶にならなくとも仏教を聞いて仏道を歩むことの具体的な内容は、仏教の三つの宝である「仏（真実に目覚めたもの）・法（真実の教え）・僧（真実の教えを聞く人々の集まり）」を敬い、拠り所として生きていくことです。得度式を受けた年齢は、長男十二歳・次男九歳・三男は十歳でした。その年頃なりによくよく説明したつもりではありますが、今、言語化できる年齢になり、疑問を表現してくれるようになった子ども達だからこそその発想から、今回のちょっくら解説をお届けしました。

☆当院の仏教名言集 第三十八回

『一水四見（いっすいしけん）』

夏になると週に一度は夜に、三男と昆虫採集に出かけます。採集場所に到着すると三男が「お父さんは向こうを見てきて」と、指示を出します。



近年は、夜といっても暑く、気温は三十度を超えています。私は早く涼しい所に行きたいな、などと考えながら虫を探します。「何もいなかったよ」と告げると「次は僕が見に行く」と、私が見回った場所を再確認します。三男は「いたじゃないか、何処を見てるの」と私に言います。三男に採った場所を聞くと、そこは私がただの黒いシミだと思った場所でした。同じものを見ていても、見ている人の意識が違っていると、異なる物に見えるようです。

仏教の言葉に「一水四見」という言葉があります。意味は、同じ水でも見るものの立場や状況でまったく見え方が違うという意味です。人間が「水」を見ればただの水であっても、魚にとつては、自分たちの住む世界であります。宙に浮いている天人にとつては、輝く水晶の地面となります。そして、貪る餓鬼にとつては、膿と血の池に見えるのです。つまり、私たち人間とは、正しく物を見ることができないことを教えてくれます。

今年の夏の法話会は、佐野明弘先生でした。十年前に佐野先生がお話してくださった時に「大恋愛をしている彼女と見に行く海と、その彼女と別れてから見に行く海は違う海に見えるはず」と「一水四見」について教えていただいたことでした。

私も暑い夜であっても昆虫を宝のように思えば、三男のように多くの昆虫を採集できるのではないでしょうか。

（ 当院 ）



☆編集を終えて：

二年振りの子ども会の開催・運営を心配していましたが、スタッフの皆さんとご参加の皆様のご協力のお陰をもちまして、掲載の写真の通り、にぎやかに開催することができました。個人的な思いも含みますが、七月二十四日に、六月に開催された新潟教区第十組仏教文化講演会のご講師、珠洲焼作家の篠原敬氏の元をスタッフの有志で尋ねてきました。こちらでも行事報告番外編として掲載させていただいております。どうぞご覧ください。

終戦から八十年の夏休みです。人間の都合でどうにかなるように思いがちな私たち。その傲慢さによって、自然を破壊し戦争を起こしてきたのが近代ではないでしょうか。自然・大地に生かされ、許されて存在しているのが私たち人間である……ということ、講演会・御法話等、今までに出遇った方々から聞かせていただく機会の多い二〇二五年前半でした。子ども達の元気で明るい声が、未来にも続いていきますように。

（ 晴香 ）

☆連絡先 浄敬寺

〒945-0051

柏崎市東本町 1 - 11 - 35

TEL:0257-22-2481

FAX:0257-22-2140

Mail :

住職 tomi814@kisnet.or.jp

当院 minipapa@kisnet.or.jp

晴香 jyoukyouji222481@gmail.com

報恩講の日程終了後、受付・講師接待・お勝手のスタッフの皆さんと

